

「検使見合書留」(二)

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——

小 倉 宗

第一章 史料の紹介(承前)

【13】

和州村々取斗

覚

一、出火之事

是_者、都_而寺社出火之分_者其御役所_江為訴、百姓家・庵室等之出火_者検使不差遣、出火之次第書付、書状を以御

届申出、焼死人有之時_者検使差遣、見分之趣手代とも二村役人為召連、其御役所_江差出候様可仕候事

但、焼死之牛馬有之候共検使不差遣、届書ニ書載可申事

御朱印地、其外重き寺院_者当御役所_江検使差遣可申候間、其所_江当御役所_江直ニ訴出候様兼_而御申付置可被成

候、其外_者書面之通御取斗可有之候

一、廻国又_者西国順礼、其外出所不相知行倒之もの、并他領懸り合有之変死・行倒者之類_者、村方_江直ニ其御役所_江

「検使見合書留」(二)

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

為訴、御役所江檢使被差遣、落着被仰付候上、其趣拙者方江為届可申候、且御代官所村限之變死者檢使差遣、吟味之趣手代書付ニ口書写相添、一件之もの共為召連、其御役所江差出可申候、尤非人之變死・行倒之分者、村方江直ニ其御役所江御届申上、落着被仰渡候上、拙者方江届出候様可仕候事

但、本文、他領懸合有無之趣於村方相札、訴出候儀ニ御座候得共、自然他領懸り合無之趣訴出、拙者方江檢使差遣候上、掛り合之もの有之、檢使場所江罷出居候ハ、是又吟味書取之、口書写相添、一件之者共手代為召連、其御役所江差出可申候

書面之通致承知候、此通御取斗可有之候

一、捨子有之時者、村方江其御役所江直ニ為訴、貫人有之候ハ、是又直ニ其御役所江為相願、落着被仰渡候上、拙者方江届出候様可仕候事

書面之通致承知候、此通御取斗可有之候

一、御代官所村内ニ何品二不限捨物等有之候ハ、其品村役共ニ為持、其御役所江為差出、落着被仰渡候上、拙者方江村方江届出候様可仕候事

書面之趣致承知候、此通御取斗可有之候

一、旧離・義絶類願出候時者、様子得と承札候上、親類之内他領之もの有之、致連印候ハ、連印為拔、御代官所之もの斗連印為致、拙者御役所帳面ニ相記、其趣御届申上候様可為仕候事

但、他領之ものは其筋江願出候様可申渡候事

書面之趣致承知候、此通り御取斗可有之候

一、欠落人之儀、無高百姓・借家人等之分者、拙者御役所帳面ニ記候上、其御役所江御届申上候様申渡、且高持百姓之

欠落^者御勘定所^江相届、定例之通日限尋申付、一件相濟候上、其御役所^江村方^江御届為申上候様可仕候事

書面之趣致承知候、此通御取斗可有之候

右取斗方之趣御聞合申候、御附紙を以被仰聞候様被下候様仕度奉存候、以上

戊二月^(寛政二年)

内藤重三郎^(忠烈、二人制京都代官)

【14】

寛政四子年京都町奉行所^江出候書付

拙者共支配所山城・丹波国々村々之内^二而^一是迄変死人有之候得^者、村方断書写御改所^江差出、御達次第檢使差遣、致吟

味候処、京都町内、其他他領之もの^二而^一親類之もの尋来候儀も有之、其節^者檢使之もの右於場所^二其者共一ト通り吟味

書付取之罷帰、一件書付写各様御役所^江差出、死骸取片付等御達之趣を以申渡来り、然処寛政元酉年十一月十七日山

科郷日岡村^二倒死人有之、為檢使手代之もの差遣、死骸相改、吟味仕候内、右倒死人^者京都高倉通三条上ル町山田屋

吉兵衛同居柳屋弥助と申もの之由^二而^一、妻并親類等死骸及見度段右場所^江申出候^二付、則死骸為及見候処、弥助^二無紛

旨申候^二付、始末相尋、書付取之罷帰、右写井上美濃守殿御役所^江差出候処、一件吟味之趣被致承知、落着儀^者美濃

守殿御役所^二而^一可被申渡候、尤類例有之儀^二者^一候得共、町方之もの拙者共御役所^江遂檢使候儀如何^二候間、向後町方之

もの^二候ハ、檢使不仕罷帰、其段御役所^江御懸合可申候、且是迄変死人^者御代官所之もの^二候得共、京都^二親類・

縁者有之、檢使場所^江来合候得^者吟味書付取之候分、以来^者檢使先^江申登、一ト通御役所^江御通達可申置旨被相達候、

然ル処右体変死等有之節^者、前断之通一件始末各様御役所^江御懸合申候儀、殊^二美濃守殿御達之趣^二而^一、遠方之於村

方変死有之、吟味之上、町方之もの^二而^一檢使不致罷帰、猶御役所^江檢使被遣候ハ、往返日間取、村方難儀仕候上、

〔檢使見合書留〕(二)

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

暑氣之砌者死骸之様子も替り可申、旁不弁理之様奉存候、且変死人者御代官所之もの二而、町方之縁類有之、場所江来合、書付取候分、檢使先江申登し、一ト通御役所江御通達申候儀、是以遠方村方者迷惑仕候儀ニ付、右体変死人檢使取斗之儀、取初（趣）今人主町方之ものと相知候ハ、是迄之通相心得可申候、左も無之、檢使吟味中ニ尋來、町方之者与相知候分、并町方縁類之もの場所江来合候もの者、以來先例之通於場所檢使之者書付取之罷歸、書付写各様御役所江差出候様仕度奉存候、依之此段御懸合申候、以上

子五月（寛政四年）

内藤重三郎（忠恕、二人制京都代官）

小堀縫殿（邦明、同代官）

何之存寄無之候間、以來御書面之通御取斗候様存候、以上

五月（寛政四年）

菅沼下野守（定喜、京都東町奉行）

三浦伊勢守（正子、同西町奉行）

【15】

寛政五丑年御書付写

近来被差出候変死・行倒死人等之伺書、手代差遣、見分為致候段者有之候得共、專其所之風聞を以自害・首縊・相對死・病死等極メ候趣二而、見分之もの見極候由者不相聞、畢竟自他之仕業を見極候ため之檢使ニ候上者、右檢使之もの見極第一ニ候処、其趣之文言無之伺書時々有之、不可然候間、以來変死・行倒死等之類訴出、見分之もの差遣候ハ、自他之仕業見届候上、猶又其所之風聞等をも承り、其時宜ニ随ひ、見分之趣を以伺書取調可被差出候、以上

丑六月廿日（寛政五年）

此御書付、根岸肥前守殿(鎮衛、公事方勘定奉行)石原清左衛門殿(正範、大津代官)手代呼出、御渡し有之候付、惣廻状を以達之事

〔16〕

山城国愛宕郡西賀茂村之内、拙者支配之小物成山之内字万寿峠(三浦正字、京都西町奉行)与申所(二)、同郡小野郷 仙洞御料中畑村百姓源兵衛叔父甚四郎(遺)申もの致縊死候付、其段先月二日伊勢守殿御役所(江)御訴申候段、拙者方(江)も届出候処、則御役所(遺)の檢使被遣、

一件相済申候、然ル処去ル戌年八月(寛政二) 右小物成山字かへるか谷(利基、前京都西町奉行)与申所(二)、何方之もの(遺)も不相知坊主之縊死人有之、

其節拙者御役所(江)訴出、則例之通写書井上美濃守殿御役所(江)拙者方(江)の差出候処、堂上山本家懸り合も有之候故哉、檢使(遺)御役所(遺)被遣候、右之次第二付、此度之儀も拙者方(江)可申出儀(与)存、村方相糺候処、右戌年之節小物成山(者)高外之

儀二付、御役所(江)可訴出処、拙者方(江)申出候(者)心得違二候間、以来御役所(江)直二可訴出旨檢使(与)申渡有之、請書差出候

二付、此度之儀(者)御役所(江)罷出候段申之候、然ル二拙者支配之小物成山(者)右村二不限所々二有之、愛宕郡(紫竹)村領之内

拙者支配之小物成山(二)、去ル酉年五月百姓五郎兵衛同居甥久兵衛(与)申もの致縊死、其節も拙者御役所(江)申出、則書付

写例之通美濃守殿御役所(江)差出候処、拙者方(江)の檢使可遣旨二付、手代差出候、其外右村方小物成山内(二) 明和五子年三

月・同六丑年十月縊死之もの有之、其節二も右同様振合(邦直、前京都代官)、小堀数馬方(邦直)の檢使差遣候儀二御座候、尤区々二相成候(而)

於村方も迷惑仕候儀二付、御差支も無之候ハ、右体之場所(二) 変死有之候砌(者)、拙者御役所(江)訴出、各様御役所(江)書

付写差出、檢使之儀(者)御達之趣を以取斗候様仕度奉存候、依之此段御懸合申候、以上

五十一月(寛政五年) 小堀縫殿(邦明、二人制京都代官)

此書付、丑十一月七日西目付方(京都西町奉行所)湯口源右衛門持参候、与力熊倉惣助(京都代官)相渡置候処、翌寅六月六日於同所同人(京都西町奉行所)の源

右衛門(江)申聞候(者)、先達(而)西賀茂村縊死人之儀二付、訴出方取斗之儀二付御談書被差出候付、相糺候処、村方(者)の受

「檢使見合書留」(二)

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

書差出候様申候、檢使之もの者右之段ダシ申渡、受書取候儀無之旨申候、右之処致相違候ニ付、書取二而者御答不及候、
以來支配所通取斗、於奉行所差支之儀無之候、依之談書者被致返却候旨二而、右本昏相返し候事

【17】

寛政六寅年大坂町奉行所江出候書付

御料所村方二而人殺・疵付・口論、其外異変之儀、且盜賊・火附等召捕候節取斗方之儀、去ル丑年御勘定奉行中〇

(上方)

御代官江達有之候得共、京都二而者御役宅附牢屋無之、右体之〔儀〕手限吟味差支候付、右丑年以来も於御役所二御取

斗被下候様、去ル酉年小堀縫殿〇及御懸合〔置〕申候、然ル処此度河内国茨田郡・交野郡村々之内、拙者御代官所二

(寛政元)

(那明、京都代官)

被仰付候間、右体異変之儀訴出候節、他領引合者勿論、拙者一支配内之もの二而も、入牢候以上之吟味もの之儀、於其

御役所御取斗被下候様仕度奉存候、尤右之趣御勘定奉行江も申達候、以上

寛政六年
寅八月

(忠恕、二人制京都代官)
内藤重三郎

御書面、貴様御代官所何河芟茨田郡・交野郡村々之内異変之儀訴出候節、他領引合者勿論、貴様一支配内之も

の二而も、入牢以上之吟味もの者拙者并御役所二において取斗候様被成度旨、尤右之趣御勘定所江も御申達候致

承知候得共、変死人・首縊死・溺死等之分者、他領引合有之候二而も、先日貴様御手二而一ト通御聞〇之上拙者共

方江御引渡有之、盜賊・火附・及刃傷候類有之、村方手ニ余候歎、又者刃物持、閉籠罷在候類者差懸り候儀、其

上何レ二も入牢申付、及吟味候ものニ付、村方〇拙者共御役所江訴出次第召捕置可申候、跡二而も不苦候間、御

引渡被成候趣之御書面者御認可被遣候、尤御手代被差出候二も及ひ不申候、御引渡之御書面者誠〇為念期二而之証扱

二いたし候、日限等之儀者、其節御勘弁有之儀二存候

盜賊・火附并変死・行倒、其外出火・欠落・旧離等取斗方、堺奉行所江懸合

御料所村方二而人殺・疵附・口論、其外異変之儀、且盜賊・火附等召捕候節取斗方之儀、去ル丑年御勘定奉行安永〇

之候得共、京都二而御役宅附牢屋無之、手限吟味差支候間、此度拙者当分御預所二被仰付候和泉国於村々右体異変有

之節、他領引合者勿論、拙者一支配内之もの二而も都て入牢申付候程之吟味ものハ、於其御役所御取斗被下候様仕度奉

存候、尤右之趣御勘定奉行江も申達候積二御座候

一、他領掛合者勿論、廻国於人、其外出所不知もの行倒・変死之類者、其御役所江村方〇直二訴出、御取斗被下候様仕

度奉存候、且拙者支配所内之者変死有之節者、檢使差遣、見分吟味之趣御勘定奉行江伺之上、拙者方二而落着申渡候

積二御座候

但、他領懸り合有無之儀、於村方得トク相糺、訴出候様申渡候儀二御座候得共、檢使差遣候上、若他領二懸合之も

の有之、檢使先江罷在候ハ、吟味口書取之、右口書写相添、一件之もの手代召連、其御役所江差出可申候

一、出火・紛失物・捨子・捨物等有之候節者、其御役所江村方〇直二訴出、御取斗被下候様仕度奉存候

但、出火之儀、寺院并燒死人等有之節者、拙者方〇檢使差遣、見分吟味之上口書取之、右口書写相添、一件之も

の手代召連、其御役所江差出可申候

一、拙者支配所限之旧離・義絶願之類、并失人立帰もの之儀者、拙者方三而取斗、一ヶ月限溜置、翌月上旬其段書面を

以御断申候様仕度奉存候

右之趣を以取斗候様仕度奉存候、以上

卯十一月寛政七年 小堀縫殿邦明、京都代官

〔檢使見合書留〕(二)

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

書面之趣懸合候処、承知之旨合有之(卷)

【19】

寛政八辰年(奈忠)南都奉行合山城・撰河州村々取斗方問合答書

城州村々取斗

一、支配所地内二而他領之もの及変死候類、并最初合他領懸り合有之候分者、直二京都町奉行所江為訴、一件於奉行所取捌有之候

但、訴候節人主不相知、拙者方合檢使差遣候上、他領懸り合等相分候分者、一同口書取之、写奉行所江差出申候(遣)

一、支配所限之變死并廻国体、其外(ママ) 出所不相知變死・行倒之分者、訴書写京都町奉行所江差出候上、手代檢使

差遣、吟味口書写猶又右奉行所江差出、達之趣を以落着申渡候、且非人之變死・行倒者、悲田院年寄江為見届、非人

二無相違旨訴書差出候得者、是又写右奉行所江差出、達之趣を以死骸取捨申渡候

一、久離・義絶・欠落之類者、村方書付写町奉行所江差出、帳面記相濟候段達有之候上、拙者方おいても承届申候

一、捨子・捨物者、訴書写町奉行所江差出、達之趣を以捨子者悲田院江為差遣、捨物者奉行所江取上相成申候

撰河州村々取斗

一、支配所地内二而他領之もの及変死候(者)、勿論、廻国体、都而出所不知變死・行倒人、其外非人者(之)變死・行倒者、直

二大坂町奉行所江為訴、一件類奉行所取捌有之(於)

一、支配所限之變死者、手代檢使差遣、吟味之趣公事方御勘定奉行相伺、落着申渡、他領懸り合有之變死之分者、手

代見分吟味書二口書写相添、大坂町奉行所江差出、於同所落着被申渡候

一、久離・義絶・欠落とも拙者御役所帳面ニ記置、翌月上旬拙者方右町奉行所ニ相届申候

一、捨子・捨物（捨）者、直ニ右町奉行所（江）為訴、始京於奉行所取斗有之候（未）

右者、拙者御代官所村之変死・行倒人并久離・義絶・欠落、其外捨子・捨物（之）者取斗方、書面之通ニ御座候、以上

（寛政八年）
辰二月

小堀縫殿（邦明、京都代官）

文化元子年御勘定所御尋ニ付書上写

小堀縫殿元支配所内番非人取斗方申上候書付（邦明、前京都代官）

小堀主税（中務の誤り）（正徳、前京都代官惣領）

小堀縫殿元支配所内番非人共百姓ト致口論候歟、又者非人（邦明、前京都代官）与非人喧嘩或者疵付、其外共違变有之候節ハ、其筋奉行所

分見分いたし、吟味も奉行所にていたし候例、并右一件ニ付同人元役所分檢使手代差遣、吟味も同所（二）而仕、何方江

相伺、落着申渡候（与）歟申類例之事

此儀、縫殿元支配所内番非人共（与）百姓、并非人（与）非人喧嘩或者疵付、其外之違变有之、其筋奉行所分見分吟味有之

候趣、是迄届出候儀無御座候、村々番非人（者）者、京都悲田院年寄、大坂四ヶ所・奈良・堺長吏共夫々掛り配下之由

二候得共、非常手当のため給米差出、村々ニ拘置候もの（二）而、御料所地内ニ住居仕、宗門人別も年々役所（江）差出候

も有之、全支配所内之ものニ御座候付、他領・他支配（江）不相掛、支配所限之異变（者）者、仮合番非人相加里候ても縫

殿元役所（二）而取斗来ル、則近例左ニ申上候（候）

一、寛政四子年 禁裏御料城州山科郷西野村番非人弟小七（与）申もの变死一件、縫殿元役所分檢使手代差遣、見分吟味

「檢使見合書留」（二）

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——（小倉）

之上京都町奉行所江懸合、達之趣を以落着申渡候

本文、檢使取扱之儀、番非人二不限、百姓共之変死・行倒死共、山城・丹波国著京都町奉行所江掛合、達之趣を以落着申渡来候

右之外二も前々類例有之候処、去ル申年天明八京都火災之節一件書物焼失仕候、委細之儀著不相知候得共、此後とも番非

人不埒之筋有之、一支配百姓二懸り候儀著勿論、支配限之非人与非人之喧嘩・疵付、其外之違変有之候節、縫殿元

役所分手代差遣、見分吟味之上公事方御奉行所江相伺候分、并其筋奉行所江懸合、達之趣を以取斗候分とも、国々仕来通取斗候儀二御座候

外博突一件、其外ケ条有之候得共、略之

右著、小堀縫殿元支配所内番非人取斗方御尋二付、取調候趣申上候、以上

(文化元年)
子八月
小堀中務(正徳、前京都代官惣領)

【21】

東海道・中山道・甲州道中・日光道中・奥州道中、右宿之旅籠屋著勿論、脇往還、其外之村々二而宿取候旅人頼候ハ、其所之役人立会、医師を掛、療養を加へ置、其旨御料著御代官、私領著領主・地頭江相届、五海道著道中奉行江も宿送りを以注進いたし、右旅人甲速快無之趣二候ハ、其もの在所之村役人等江申遣、親類呼寄、対談之上可住存寄、若療養も不加、宿繼・村継二而送り出江儀於顕る二者、五海道著旅籠屋・問屋年寄、其余之村々著宿いたし候もの・村役人共迨、急度御仕置可申付候

一、右之外通り掛り相煩候旅人も、其所之役人立会、医師を懸ケ、療養を加へ、勿論懷中二往来手形有之候哉相糺、

御料^者御代官、私領^者領主・地頭^江注進いたし、右病人早速快無^三之趣^二、在所^江歸り度候得共路用貯無^二之間、送届呉候様申候ハ、書付取之、其最寄ニ支配之役所有^一之候ハ、訴之、差図を受、又^者支配之役所無^二之場所^者其旨致注進置、所役人共得^者、遂相談^者、右病人願之趣を認相添、次村^江駕籠^二送り、夫より次村々^二も病人之様子次第服薬為致、同様取斗、在所^江可返遣

但、旅人申立候在所^江送り届方、一在所^二之もの無^一之候ハ、可取逃様其所^二留置、其筋^江可訴出

一、途中^二相果候ハ、次村^江不継送、支配之役所^江住進致、其所^二仮埋ニいたし置、其者之在所親類・村役人^江掛合候上、其所^二葬ル共望ニ任すべし、若道心もの廻国^一之類、其在所之寺院^者親類等慥成書付有^一之候ハ、支配之役所^江訴之、在所不及相届、其所^江可取置、勿論最初^一行例^例相果罷在候節之取斗も同様之事

右之通可相心得、万^一療養も不加、或^者内々^二継送ニおいてハ、是又急度御仕置可申付候

一、都^而右類之諸人用^者、享保二十卯年五海道^江相触候通、病人又^者在所^二差出候ハ、格別、無左候ハ、宿割・村割ニいたすべし

右之趣可相守もの也

亥十二月
(明和四年)

右御書付、明和四亥年相触置候処、近來村送り之もの送状文面不行届儀等^三差滞候事も問々有之、如何之至候、全体病人頼ニ任セ、村送り等^二国許杯^江遣候事ニ候得共、途中^二差滞、国元^江遣し候儀相延候様之事^者有之間數儀ニ候間、怪數筋も無^一之候ハ、承り状文面ニ不相泥、継呉候様可致候、若送出方紛數儀歟、又^者病人怪數も心付候ハ、留置、早速可訴出候、前書御書付触渡以來年久敷相成、心得違之ものも可有之哉ニ付、猶又触渡候条、可致其意候

酉十月
(享和元年)

〔検使見合書留〕(二)

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

右之趣、泉劔御代官所村々江可触渡旨、享和元酉年堺奉行分違有之

【22】

文化四卯五月京都町方之もの檢使場所江罷出候節、口書町役奥印之儀引合書拔

(京都町奉行所(京都代官手代)

一、当番所江坂井久平罷越候処、与力鶴飼寛次郎申談候者、先刻被差出候中島村檢使口書之内、一件之もの口書二町

役人連印兩人有之、何与やら御呼出有之

(マ マ)

奥印被仰付候様二相見江、書面如何敷候付、是者一向為御

取被成候儀者相成間敷哉、尤寛政八辰年山科郷御陵村溺死人有之候節之振合見合候処、此度之口書与致相違候様存候間、猶得と御調之上写御差出可然旨申聞候付、猶可申聞旨相答、口書写式通受取帰り候支

一、前書之趣二付、寛政八辰年山科郷御陵村^{二而}京都河原町三条下ル式丁目亀屋助七^与申もの溺死いたし候節、親類龜

屋忠兵衛口書取之、同町年行寺奥印有之、此度之振合与相違候様も不相見候得共、右御陵村之節者付添一人二候処、

此度^者町役人・五人組^与式人二付、夫等之処相違と申儀二可有之被存候付、猶又面当番所^江川勝由兵衛口書写持參、

与力前同人^江面会二付、添奥印之儀前々分仕来^{二而}、一件之もの斗印形申付候^者、書付曉^与取用二相成不申様二相

心得罷在、町役人等別段呼出^者不申候得共、何レ付添罷出候積取斗、印形申付候儀^{二而}、一人出節^者一人奥印申付候

得共、此度^者兩人共印形取候儀二御座候、呼出候^{二者}無之旨懸合候処承知いたし、猶是分致沙汰候^者迄引取居候様誂候^(談力)

付、口書写相渡置、引取候支

一、坂井久平面当番所^江外御用向有之罷出候処、与力上田百太郎申聞候^者、中島村縊死人一件口書町役人之もの奥印

之儀二付、昨日当番分御談申^{ハ、ナ}出、御仕来之趣御答^{二而}相濟候得共、全体右様変死人有之節、一件之者共檢使場所^江罷

出、御糺之上口書御取候ハ、附添之もの奥印御申付之儀^者御尤二候間、寛政八辰年御陵村溺死人之節杯之通、壹

人之奥印位にて手軽く御取斗之方可然候、畢竟為念御取被成奥印之事二候得者、以来者其御心得^二而御取斗御座候様存候、尤先年檢使之儀ニ付御懸合濟之趣も有之候得者、右等之意味御勘弁御座候様存候旨内々申聞候付、以来其心得にて取斗可申旨相答置候事

【23】

文化八末年御書付写

支配所内ニ行倒死人有之節之儀、他支配・他領之もの二候とも、全病死ニ無紛、疑敷筋無之分者、立会檢使ニ及はず、所役人分其もの之在所親類・村役人江為懸合、存寄相札候上、其所ニ葬候とも任望候積可被取斗候

右者、是迄心得方区々之儀も有之候付、牧野備前守殿(忠精 勝手掛老中)伺之上申達候、尤聊にても疵所等有之歟、心障之品有之候ハ、立会檢使之積可被相心得候、以上

〔文化八年正月〕

永(永田正道、公事方勘定奉行)備後守

肥(肥田頼常、勝手方勘定奉行)後守

松(松平信行、公事方勘定奉行)兵庫頭

小(小笠原長幸、勝手方勘定奉行)伊勢守

柳(柳生久通、同奉行)主膳正

(代官)
惣廻状

〔檢使見合書留〕(二)

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

【24の1】

以切紙致啓上候、弥御安全ニ被成御勤仕、珍重奉存候、然(岸本莊美、大坂鈴木町代官)武十郎支配所何(河)芴安宿郡国分村百姓儀右衛門娘やつ儀、其御支配所同州志記郡柏葉村和泉屋仁兵衛方(江)奉公ニ差遣置候処、当月五日右村内井路ニおゐて致水死候付、右柏原村(大坂)当地町奉行(江)届出、翌六日檢使出役有之、柏原村ニ親儀右衛門呼出有之、罷出候処、札之上、同七日於奉行所ニ、やつ死骸(ガイ)勝手次第二取片付可仕旨申渡有之段、国分村役人共届出申候、右(著)武十郎支配所之もの、其御支配所村方(二)而変死および候上(者)、御立会檢使之上、見分吟味之趣を以御奉行所(江)一件御差出被成候上(者)、格別、柏原村(直)ニ御奉行所(江)申出、御同所(二)而直ニ檢使出役、取片付方等申渡有之候(而)者、是迄之取斗方(与)振候儀(二)者無御座候哉、併右様御取斗之御振合も御座候ハ、致承知度奉存候、右可得貴意旨申付、如斯御座候、以上

〔文政元年八月〕

岸本武十郎手代(莊美、大坂鈴木町代官)

中村程四郎

大橋勇右衛門

同人手附

桑田 矢内

小堀中務様御手代(正徳、京都代官)

室 猪惣次様

佐藤丹右衛門様

中村太郎右衛門様

鷹屋佐左衛門様

【24の2】

御紙面之趣致承知候、(小堀正徳、京都代官)中務方之儀(々)前ハ仕来ニ而、兼て御奉行所(大坂町)江懸合濟有之、最初ハ他所懸合知レ有之候変死者、村方ハ直ニ御奉行所江為訴、御奉行所ハ檢使吟味之上落着被仰渡、村方ハ著其趣当方江届出候仕来ニ御座候、依之此度も柏原村ハ直ニ御奉行所江訴出、御奉行所ニおいても一件御取扱御座候儀ニ奉存候、此段御承知可被下候、右之段御報旁可得貴意旨中務申付、如斯御座候、以上

八月十二日
(文政元年)

(京都代官手代) 鷹屋 佐左衛門

(同) 中村 太郎右衛門

(同) 佐藤 丹右衛門

(同) 室 猪惣次

岸本 武十郎様御手附
(莊美、大坂鈴木町代官)

桑田 矢内様

御同人様御手代

大橋 勇右衛門様

中村 程四郎様

【24の3】

御報致披見候、弥御安全被成御勤仕、珍重ニ奉存候、然(岸本莊美、大坂鈴木町代官)武十郎支配所河劬国分村儀右衛門娘やつ儀、其御支配所同州柏原村和泉屋仁兵衛方江奉公ニ差遣置候処、当月五日右村方ニ而及水死、村方之当地御奉行所江届出、翌六日檢使(大坂町)

「檢使見合書留」(二)

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

被差遣、於御同所一件落着〔被〕仰渡候段、(分)国方村(分)訴出候二付、右者其御支配所二而武士郎支配所之者変死および候儀二付、御立会檢使之上、見分吟味之趣を以一件御奉〔行〕所江御差出被成候筋者無之哉、柏原村分直二御奉行所江申出、御同所にて直二檢使被差遣、落着申渡有之候者、是迄之取斗向与振候儀者無御座哉、右等之御振合も御座候ハ、承知いたし度、御懸合および候処、其御支配所之もの前々仕来二而、兼而当地御奉行所御懸合濟有之、最初分他所之懸合知し有之変死之分者、村方分直二御奉行所江訴出、於御同所二一件御取扱有之儀二御座候段、御報之趣致承知候、然ル処右体他之御代官所江引合之分者、立会檢使之上、見分吟味之趣を以一件昨奉行所江差出、御同所二而再檢使被差遣、猶又立会見分相添候上落着被仰渡来候儀二而、是迄之仕来二相振レ候間、御掛合および候処、右者前々御奉行所江御懸合濟も有之由、右者江戸表別段御伺之上御懸合濟之儀御座候ハ、右御伺濟之趣承知致度奉存候、且又此後御支配所之もの武士郎支配所江罷越、万一変死等致、及御懸合候節者如何御取斗御座候哉、其御支配所村々入会も有之儀二付、此後違変等有之節差支之儀も難斗、旁及御懸合候間、否御報被仰聞候様いたし度、右之趣猶又可得貴意旨武士郎申付、如斯御座候、以上

八月十六日

(大坂鈴木町代官手代)
中村程四郎

(同)
大橋勇右衛門

(同代官手付)
桑田 矢内

(京都代官手代)
四人宛

【24の4】

御紙面之趣致承知候、右者先書も得貴意〔候〕通り、(小堀正徳、京都代官)中務方にて、最初分他之御支配・地領之もの(他)相知有之変死、

并出所不知變死・行倒等者、直二御奉行所江為訴、他領懸り合不相聞分者、中務方が檢使差遣、場所ニおゐて他領懸合相知候節者、一同口書取之、(大坂町)御奉行所江差出候儀二而、別段伺濟者無御座候得共、前々が右之振合ニ取斗来申候、

尤安永十丑年上方御料所一統手限吟味被仰渡候節も、当方者御役所附牢屋無之、入牢以上之吟味もの差支候付、都而異変之儀訴出候節者、丑年以前之通向々御奉行所二而御取斗有之積、其節江戸表(勘定奉行)御届申上、向々御奉行所江も達之上、右体異変檢使等之儀も前々之通取斗来申候、且又当方支配所之もの他支配・他領二而及変死、立会檢使之儀懸合申来候節者、是迄二も出役差出来候間、此後とも中務支配所もの其御支配所内二而及変死、御立会之儀御懸合御座候節者、早速出役申付候儀ニ御座候、左様御承知可被下候、右貴報為〔可〕得貴意御斯御座候、以上

九月三日

(文政元年)

鷹屋佐左衛門

(京都代官手代)

中村太郎右衛門

佐藤丹右衛門

室猪惣治

(大坂鈴木町代官手付・手代)
三人宛

【24の5】

以切紙致啓上候、然者撰河播州御代官所・当分御預所村々檢使取斗方之儀、都而他支配・他領之もの及変死候節者、其地元支配が及懸合、双方立会檢使之上、見分吟味之趣を以口書取之、出役手附・手代ニ書上為致、右書面致渚書、一件大坂町奉行所差出、右変死之趣ニ寄猶又町奉行所も再檢使被差遣、立会見分之上、猶又於町奉行所落着申渡有之候仕来ニ御座候処、去寅八月中拙者支配所河州安宿郡郡国分村無高百姓儀右衛門娘やつ儀、貴様御支配所同州志記郡(文政元年)

〔檢使見合書留〕(二)

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

柏原村仁兵衛方江奉公罷在、及變死候節、檢使取斗方振合相變候付、手附・手代共江御手代中江為及懸合候処、最初合之懸り合相知レ有之變死之分者、村方江直二大坂町奉行所江訴出、於同所二一件取扱有之、他領懸り会不相聞分者、檢使差遣、於場所他支配・他領懸り合相知レ候節、御料・私領共不及立会、一件口書取之、大坂町奉行所江御差出之儀二而、伺濟者無之候得共、前々江右之振合二取斗來趣、左候て者、撰河播州支配有之他御同役取斗方江致齟齬候儀二付、以来者立会檢使之上御取斗御座候様致度、猶又為及御懸合候処、前々江向々奉行所江前文之通御懸合濟有之儀二付、仕來之通御取斗被成度段、御手代中江申越候付、右相振候趣二而、檢使取斗方拙者心得之趣土屋紀伊守殿江相伺候処、支配所之他之支配所江罷越、變死等致候節者、取斗者拙者外御同役方仕來之通にて振候儀も不相聞候間、右之趣今一応貴様御方被及御懸合、区々二不相成様申合、若又貴様御方二而仕來相改候儀御差支之筋も有之歟、又者大坂町奉行所三而故障等有之候ハ、其子細貴様江直二紀伊殿江御申立有之候様二可及御通達旨御下知御座候間、此段及御懸合、御承知之段御報被仰越候様致度候、右為可得貴意如斯御座候、以上

(文政二年)
二月七日

(莊美、大坂鈴木町代官)
岸本武十郎印

(正徳、京都代官)
小堀中務様

【24の6】

御紙面之趣致承知候、猶取調之上、從是可得貴意候間、左様御承知可被下候、右為貴報如斯御座候、以上

(文政二年)

(正徳、京都代官)
小堀中務印

(莊美、大坂鈴木町代官)
岸本武十郎様

猶々、本文異変之儀、取調中者仕來り通り相斗申候間、此段御承知被置可被下候、以上

【25の1】

他支配・他領之者変死・疵付等取斗伺書

小堀中務
(正徳 京都代官)

拙者御代官所山城・大和・河内・和泉・摂津・丹波国村々之内変死人・疵付等有之、他領・他支配之者人主相知有之候得者、山城・丹波国者村方江直二京都町奉行所江訴出、支配所手限之分并出所不知もの之変死・行倒等者、拙者方江訴出、訴状写を以京都奉行所江相達、拙者方江檢使可遣旨差図有之候得者檢使差遣、吟味之始末猶又口書写を以相斷、差図之趣を以落着申渡、大和・河内・和泉・摂津国之分、最初江他之掛合相知有之候変死・疵付・行倒、其外出所不知もの之変死・行倒者、村方江直二右奉行所江為訴、吟味落着向之於奉行所取斗有之、支配所限之分者拙者方江檢使差遣、吟味之上、撰河泉三ヶ国者江御手前様方江落着相伺、大和国者江南都奉行江相達、差図之趣を以落着申渡、檢使之上他所懸り合御座候分者、一同書付取之、出役もの江見分之趣書取相添、一件之もの召連、右向々奉行所江差出、別段吟味之始末撰河泉とも江江戸表江者相伺来不申候、然処此度岸本武士江御代官所河州安宿郡郡国分村人別之もの、拙者支配所同州志記郡柏原村奉公先にて度変死候付、仕来之通地元柏原村江大坂奉行所江訴出、右奉行所江檢使有之候後、右江双方御科所支配違之儀二付、立会檢使之上連名江吟味之始末奉行所江可申立処、拙者方之取斗、撰河播州二支配有之候外同役共取斗方江齟齬候旨、岸本武士江懸合有之付、伺濟者無之候得共、前々取斗来候旨及返答候処、武士郎心得を以相伺候由にて、猶又支配所之者他之支配所江罷越、変死致候節之取斗者、同人并外同役共方仕来之通にて相振候儀も不相聞候間、今一応拙者方江懸合、取斗方区々不成様申合、若又拙者方之儀仕来相改、差支之筋も有之歟、奉行所にて故障有之候ハ、其子細拙者方江直二別段相伺候様御下知之趣通達仕、承知之答承度段申越候付、猶取調之上可及答旨返書差遣申候、然ル処右取斗、外同役共同様相改、差支候筋無御座候へ共、拙者方之儀、安永

〔檢使見合書留〕(二)

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

十丑年上方御代官一同手限吟味被仰付候節、御役宅附牢屋無之、人殺、其外入牢以上之吟味もの取斗差支候付、新規
取建之儀、天明年中角倉与一(支奏 前々京都河原町二条代官(數)邦直 前々京都代官)・同先代小堀援馬相伺、右御下知被仰渡候迄者、右体之類是迄通取斗有之度旨京・大坂
奉行所江申達、其段御勘定所江も申立置候処、右牢屋取建之儀御下知無御座候付、取斗向來相改、其俣二前々仕來通
取斗來、其後大和・和泉国新規支配所被仰付候節々、奈良・堺奉行所江も右類変死・行倒二不限、都而仕來之趣を以
懸合置、元極を立、年來無滞済來候儀にて、右他所引合之変死人立会檢使一条斗奉行所江断返仕様を改候共、拙者方
之儀、禁裏御所方御用も相勤、前々仕來を以取斗、御役宅付牢屋等も無御座候付、外同役共与者一体取斗向相振候儀
多御座候間、右他所引合変死人有之節、仕來通取斗候様仕度奉存候、依之奉伺候、以上

(文政二年)
卯六月

書面、他支配・他領之者、其支配所内二而變死等致候節之儀、同役中取斗方与区々二者候得共、右二付向々奉行
所江被達置候儀も有之、従來之仕來二候上者、是迄之通可被相心得候、以上

(文政二年)
辰三月

【25の2】

以切紙致啓上候、然者他支配之もの支配所内二而變死致候節、拙者方之取斗、撰河播州二支配有之同役中与取斗区々二
付、右相振レ候趣にて貴様御心得之趣、土屋紀伊守殿へ御伺之上差凶之趣、去卯二月中御通達有之候二付、猶取調之
上従是可得貴意旨、其節及貴報置候、依之拙者方仕來之趣を以紀伊守殿江相伺置候処、他支配所・他領之もの支配所
内二而變死等いたし候節儀、同役中取斗方与区々二者候得共、右二付向々奉行所江達置候儀も有之仕來二候上者、是迄之
通相心得可申旨、今般石川主水正殿差函相濟候付、拙者方之儀、仕來之通取斗申候間、左様御承知可被下候、右之段

(忠房 公事方勘定奉行)

為可得貴意如斯御座候、以上

(文政三年)

四月廿日

小堀中務

(正徳、京都代官)

岸本武十郎様

(莊美、大坂鈴木町代官)

【26】

行倒死

一、往來之旅人者煩ひ候節者、其所ニ留置、療治を加_江、国所を承り可懸合事ニ候、若遠国之もの_二而、たとへ途中にて相果候共不苦間、村送りニ差立呉候様病人願之趣ニ候〔八〕、支配_江訴、差図之上、病人願之趣・国所・名前相認、猶次村_二而も介抱・薬用為致繼送呉候様、添書ニ村役人印形いたし、病人ニ差添、次村_江送り可遣候、自然其所_二而致病死候ハ、早速又配_江訴、検使可請候、検使之もの死骸惣身相改、病死ニ無相違哉、若_レ殺・打殺・毒伺_者又_者飢殺等いたし候_二者無之哉、見極之上口書申付候

但、毒殺_者物身紫色之斑可有之、甚しき〔八〕口中_ハ血を吐候跡有之、飢殺ハ手足・面部之肉落、腹斗大ニ成有之、乍然脹満・水腫・鼓脹之類_与申共、物身種氣_腫之体無之と怪敷可心付、_メ殺・打殺_者苦痛体有之、眼上つり、齒を喰結、又両手を延し、かまぬものあり、打疵等をも心付へし、何も時宜_密ニ奇べく候

一、検使相濟、病氣無相違、怪敷儀も不相聞候ハ、死骸仮埋申付、其所_ハ死人之在所_江懸合すべく候、然共格別遠方_者之分_者難行届ニ付、早速可為相知旨口書ニ認入可申候、尤口書之取方_者不入組様すらくと認、村役人者通、病人差置候宿之もの_者尙通、其五人組尙通、医師尙通位にて可然候、乍去其品_二寄何程も可有之候

但、五畿内_二者其奉行所_江申立候得共、晒之上取置被仰付候由

〔検使見合書留〕(二)

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

一、同道人又者妻子等付添候もの病死いたし候ハ、同道人相尋、怪敷儀無之候間、最寄寺院江葬度旨申し候ハ、書付取之、望二任七可申候、乍然同道人忝人候ハ、病死之始末、前日迄自才之もの^(在)食事等平生体有之候哉、宿之もの相糺、医師も得与承糺可申候、同道人出立相願候ハ、無子細^者勝手ニ出立申付、別段国所江申遣^{二者}不申候得共、近国^者之者二候へ、地頭江懸合之上出立申付候儀も有之候、是者何^{二者}不及、御届斗^二相済候

但、同道人迎油断之不相成、連レ之路用・雑物等を目懸ケ、毒飼等いたし候儀有之、依之本文之通、宿江着候節

之容体并同道人眼中、其外死人路用・雑物迄相改候事にて、路用多分持居候者支配取上、奉行所江伺ひ申候

五畿内^二も子細無^{之者}、届斗^二可然哉

一、旅人又者不見知もの行倒相果候節、廻国順礼体二候ハ、往来手形又者昔かさ・柄杓等二国所認可有之、懷中物・肌^キ帶迄相改、若路用金等括り付無之哉、吟味可致、国所相分り候へ者、遠国たりとも可申遣筋二候得共、何レ之村方^にも難行届二候、左様候節^(之)口書江、国所相分り有之候へ共遠国之儀、貧村落用之手当無之、懸合方難行届旨取之、其趣を以相伺候へ共、奉行所も其領主・地頭江相達被下候儀之由二候

但、国所相分候得者懸合二差支候故、其所^二笠・往来手形取隠シ、不相分体二致置候事有、定等^者別儀さへ無之候ハ、強^而穿鑿致ましく候

一、国所不知者^者、検使口書之趣を以御代官所猶又見込を加、書上候得者、奉行所令三十日建札之上、尋来候もの無之候ハ、死骸仮埋之仮土葬ニ取置候様御下知有之事也、平人^者建札致、非人^者不致候心得^(之)べし

一、紙袋二米・麦・銭等入有之歟、めんつ・椀等所持、衣類も破レ有之候、疔^与非人^与見込、口書可取之候

一、都^而検使^者自他之仕業を見極口斗^(候)之要役ニ付心得、惣身疵所^者無之哉、年齢^者勿論、衣服之模様・雑物・下帯二至^二迄相改、死居候様子を考へ、他人之仕業歟、病死歟を得と分別肝要也、衣服・雑物相応にて路用金無之候ハ、怪

敷心付べし、其品ニ寄、始而見付口候もの、日比之行状・身上之貧福承糺、吟味いたし候儀有之

但、五畿内ニ而者、其所之番非人存寄を承糺候事有之、則番非人之口書をも取候、番非人者日比村内之非常を心付、
広く風聞をも承り居候ゆへ也

一、惣而死候体、穩二見へ候者多分病死と見込、両手を握り、屈ミ兼、怒之体有之者、他人之仕業与心付べし、手ニ而咽をメめ、又者陰囊をメ殺類ニも可有之哉、死人之帯を解有之も怪敷也、路用をさかし候と心付べし

一、往来之者行倒死、見分之上、下帯メ候者平人立、無之者非人ニ取扱、又者染色ニ寄甲乙有之与申者あり、平人ニも非人等江取られ、無之もあり、乞食ニも下帯メ候あり、染色者使約ニ而色々有之へし、下帯にて差別有之儀者我等末不存事ニ、関東ニて侍ニ下帯無之も及見候

【27】

首縊之事

一、自身首縊候もの、舌之色変し、縄目咽江懸くびれ入、鼻水たれ、大便出、陰囊も下り有之、尤少し首延候体有之、婦人者陰門江血流レ有之もの也、若他人メ殺し、首縊り候体ニ（ママ）致置候者、死後ニ致候事ゆへ、首も不延、縄目耳後へくびれ入らず、大便出候事も無之もの也、眼中等二目を付べし

但、繩にて縊り候何り、下帯にて縊り口あり、細帯にて縊候あり、其品替り〔候〕とも本文之通心得へし、又家内にて縊候者能く翫味有へし、覚悟之上縊候者、衣類・諸道具日比之俣取（置脱カ）べし、他人之所為ニ候へ者、暫く取合候体有之、衣類・諸道具散乱之様子等心付べし

一、首縊人無子細候ハ、始見付候もの・村役人・親類・妻子ニ至迄、其日之始末・日比之様子を為申、病症と歟、

〔検使見合書留〕（二）

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——（小倉）

又者貧窮二廻り候^与歟、右故首縊候哉、右怪敷心付之儀無之旨口書取之、死骸者仮埋申付、奉行所^江相伺候

但、五畿内^{二而者}近所故、直二其奉行所^江申立候得^者、奉行所差圖にて晒之上取置被仰付候由なり

一、檢使之上、他人之所為二決候得共相手不知^者、死骸者仮埋申付、其筋番非人等二申付、成丈為承札、檢使之引取奉行所^江其趣申立候也

但、五畿内^{二而者}奉行所^江申立候得^者、品二寄再檢使二相成、奉行所引請二成候儀有之由二候

一、首縊候者、朝夕方迄二見付、胸下少く温なる者ハ可披候、俄二繩を切落る事無用也、下^レ抱留、靜二繩を解、平地二臥させ、半夏之粉を豆程鼻中^江吹入^レ者、大概^者息を返スもの也、又抱下し候上、眉を押へ、手足を引張、髮毛を引、大勢^{二而}透もなく引張、鼻を塞キ、兩耳を吹候得^者、氣戻り生るもの也、又鶏之とさか之血を取、口中^マ入^レれ生るもの也、男^者雌鳥、女^者雄鳥を用るなり

【28】

水死之事

一、自身入水いたし候者、水を吞候故腹ふくれ、手^{二而}按にかわ^{（りカ）}と音あるもの也、他人の所為にて入水の体二致候者、死後二相^{（按）}込候事ゆへ決^而水^者吞ぬ者也、水死二色々あれとも、只水を吞居候類・不吞類^{二而}分別すへし、袖二石を入、或^者はき惣を水辺二擱置候とも取用へからず、尤池川共水之深サをさし考へし、深サ壹尺^レ壹尺五寸位之川にて死居候^者怪敷^与心付へし

一、水死四、五日も立候得^者、惣身脹れ、皮むけ懸る者也、七、八日も立候得^者、大に脹れ、面目之程も分らず、或ハ常之倍^{（倍）}も成もの也あり、然レ共自身入水したる^者、是非水を吞体あり、能々考べし

一、井戸江はまり死たるも大概同し、怪敷我二而はまりたる者、井戸倒側之有無二も寄へからず、顔・手足等二掲疵・打疵様之もの有、死する程之疵無之、血流あるも多くハ怪我二而はまりたる也、其節家内二人居合候哉、物音を聞候者無之哉、其場之様子得与糺へし、又疵所も無之、倒さま二落、水を吞といへとも、格別腹脹れ無之もあり、能々分別すへし、野井戸等江落入死たる者、他人之仕業間念之あるもの也、打殺・メ殺、又者陰囊杯メ、井戸江投込候者、水を吞候体無之、其場所之様子得与心得べし、先年野井戸江落死候もの、檢使之上何も別条無之、怪我二極り候処、齒二血を含与有之二而、他人之業与心付、致詮義候処、隣村之もの意趣有之、陰囊をしめ、半死成を井戸江打込候由、其節腕江喰付候段白状二及ひ候由、依之石体之節者、平日喧嘩等致候儀者無之哉、吟味すへし

一、入水いたし候もの早速引上、むね之あたり暖かに氣之通ひ有之ハ、先ツ床机様之物之上二臥せ、足之方を高きたし、塩を煎て臍二ぬり候へ者、水口中分流出而活るもの也、皂角之粉を綿二包ミ、肛門に入れ者、水流出而活るもの也、又急に死人之衣服を脱せ、臍に炎灸をするもよし、冬月杯者直二引上ケ而も寒て死するもの也、其時者火二而温る事を忌候、木綿之袋に熱灰を入、心頭に置、冷者取替、目之開く迄如斯する也、目開きたらバ、酒又者生姜之絞り汁を温め、心の頭分腹江懸蒸べし、水を強く吞候ハ、前々法之を用ゆへし

【29】

焼死之亘

一、急火之節、病人又者老人杯出し難く、焼死いたし候由申出る時者、口中を改メ見るべし、灰を吞居る者也、他人之仕業二而殺候て火中分を投込候者、口中二灰なく心得べし

一、越ケ谷宿出火之節、病氣之親を為致焼死候者及吟味候処、急火ゆへ無差別二逃出候得共、親之儀心二懸り、再び

〔檢使見合書留〕(二)

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

家内江飛込候得共、梁木焼落難入、無扨親致焼死候旨申之、怪敷儀も不相聞二付、其趣書上候処、富役衆被申聞候者(留評定所)、病人与申、殊二親之儀、自身逃出候事二候ハ、親を肩二懸ケ可出処、梁木焼落候迄見合居候趣二而者、親殺二も似寄候儀二而御仕懸付候、是者檢使之もの吟味承違二可有之、其節親儀、病氣ながら可逃出心得二有之候哉、床を拔出候跡江悴馳來り、所々さかし候得共不居合、扨者逃退候儀と心付候得共、猶も捜し候内、家内一面二火二なり、途方を失ひ逃出候得共、外二も居す二付再び馳入り候処、取早梁木焼落難入、跡二而糺候処、雪隠与歟、庭之隅与歟、不存寄所二死骸図有之候趣及承候、実親さへ口書取方不吟味二候へ者如斯候、増而家内之厄介人等と能々心得、口書可取事二候

一、備中国哲多郡村名失念、隣家分出火之節、家内之厄介二いたし置候もの二長々煩ひ居候処、焼死いたし候間、檢使之者相改候得者、家内者本家二臥り、病人者小き隠居二差置候由之処、急火故病人を救ひ出候障無之、不殘逃出候得共、病人之儀心二かゝり候間、再び飛入見候処、焼死致候旨申之候付、死骸相改候処、惣身焼た、れ候へ共、白木綿を口中(マ)、一はいに含ミ死居候者、煙二噓ハセさるため兼て心得居候もの二而、可逃出べくとハ存候得共、腰立兼致焼死候儀与被察、外何二而も怪敷見付候儀無之旨、村役人一同申之候得共、檢使之もの甚怪敷存し、口中之木綿を為引出見候処、木綿下帯故、死人之下帯故死人之下帯為改候処、下帯二無之、手掛拭をつなきメ居候間、女房別二呼出、下帯を為見相尋候処、夫日比メ居候下帯二而、何故此処二有之候哉、其節者夫儀、諸道具を運び出し、直二病人を助出し候連、隠居江駈行候迄存候得共、私共者直様逃出、跡之儀不存、其節夫此下帯をメ居候者見請罷在候段申之候付、亭主之仕業相分り、手当之俣隣屋迫連帰り、敵敷及吟味候処、自分下帯を以メ殺し、直二口中江押込、焼死二紛らし候旨及白状候由、此もの百姓ながら、焼死人之口中二者灰を含ミ有之儀を存候間致候儀哉不存、御代官分其趣書上候処、切者之吟味之旨留役衆御褒有之候由、右等之処心得取斗べき事二候

喧嘩疵付之事

一、喧嘩二而疵付候類者、刃物疵付・打疵・突疵、其外疵品之様子懸相改(を)、其場之様子承り糺、相手方之もの手当いたし、若欠落致候ハ、其趣御代官江申達べし、御役所江尋方申付候也、私領引合者立会検使也

一、喧嘩にて打擲二逢、惣身痛、起臥難成趣申立、療治代をねたる族有之、惣身打疵等相改、若あばらを強打レ、疵者無之候へ共息切レいたし、又者陰囊を蹴れ、苦二堪かたき杯申候ハ、顔色之様子・喰物之多少等心付尋へく、如此之類者実意二候ハ、多分者内済為致へし、療治代品二寄金壺両与歟、式両与歟書出べし、分分之金子二而者御察当有之事也、刃物疵杯外科江縫セ候者、疵一寸金壺両之定有之よし、其品二茂寄べし、若前書之通疵跡も無之、大造二申立、療治代ねたり候類者、見顯し方品々手段も有之候もの二候得者、先者六ヶ敷検使也

人殺自害人之事

一、乱心にて人を殺候類者、其者乱心二相違無之哉、言古(古)・眼中等得与相様し、日比之行跡且近辺之風聞等も念入糺へし、弥乱心二相違無之、被殺候者之親類・妻子也も申分無之旨申候ハ、其趣口書取之、乱心者家内二而江圍入度旨申之候ハ、承届、其旨も書付取之、相伺へし

一、人二被殺候もの者、惣身之疵所逐一相改、何方二長何寸之深疵何ヶ所、何方長何寸之儀疵何ヶ所、口書二取べし、深疵・浅疵与申二者、深サ者認るに不及、尤曲尺を用ゆべし、疵改之節者血を洗ひ落し改べし、倒レ居場所、又者口切(被)なから逃延候様子二候ハ、血之伝ひを見極へし、又村杯二而江切殺之、野江持出し候儀有之、是又血之伝ひを見糺べ

「検使見合書留」(二)

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——(小倉)

し、土を削候得者削り跡有之、人家^{二而}の事ならば分り安く、殺人相分り候ハ、召捕置、伺候也、私領入会之場所^者立会檢使なり

但、五畿内御代官^者、御仕置可被成と見込候もの^者其所ニからめ置、其筋之町奉行所^江詞候由也、私領立会場所^者、

村方^江直二町奉行所^江訴出候由也

一、御料之もの娘を私領^江片付置、其娘被殺候節、御料親元^江吟味類^願出候類^者、御代官^{二而}不取上、直奉行所為願候、若遠国杯^{二而}死骸其俣難差置節^者、私領^江其趣懸合、疵所也^之様子斗相改、口書取之、仮埋之上相伺候也、若御料親元^江不願出候ハ、私領方存寄^二任セ可申上候、尤其品^二も寄へく候

一、相對死^者多分不審成儀無之者也、若他人、男女とも切殺し・メ殺し、相對死体^二いたし懸候とも、覺悟^{二而}死候と被殺候^{与者}、格別之相違有者也、又無理殺^{二而}逃退き、或ハ縛られながら死候も有之候得共、元來^者覺悟^{二而}出候事故、衣裳も着替可有之、其外覺悟之体見分ケ安キ者也、都^而男女共覺悟体^{二而}死候^者相對死^与見極メ、檢使いたし候^而も仕落^{二者}相成間敷候

一、刃物^{二而}咽をつき、又腹を切候^者、刃物^江手へ血伝ひ、手^{二而}柄を握り詰、腸杯も涌出候様有之、近辺血煙之様子見分べし、他人切殺し、自害之体^二見せ候得^者、死後^二拵へ候事故、右之趣^{与者}大違之者也、凡人生氣強候^者、血^者涌出不申^二付、血煙杯^者勿論無之、腸杯^{カクマ}堅る者也、別^而切腹いたし候もの^者座之組様^二迄も心付べし、先年壁に^マよりかゝり咽を突候もの、両手とも血染、自害之体^二相違無之処、庭^二血多く溜り有之候^二心付、血を洗ひ落候^マ得^者改候処、^{ヒラ}両手之掌切^レ有之、全他人庭^{二而}咽をさし候節、苦^二刃物を両手にて握り候^二無相違相決シ、詮儀いたし候処、隣家之下男^与其前夜喧嘩之上打擲いたし候趣^二付、右下男相尋候処、直^二逐電いたし、尋^二成候由承り伝へ候、是等も心付之種可相成^二付書付候

一、血を吐死候者毒飼与紛るもの也、毒飼者惣身紫色之斑有之、吐血者都而白く青き者なり

一、女房蜜夫いたし、実之夫を殺候儀有之、其殺様品々有之〔候〕得共、至而六ヶ敷検使也、先近辺之風聞、并二子供有之候ハ、だまし候而申口を得与承るべし、奉公人をも相糺べし、毒殺二候ハ、前書之通惣身斑々出へく、盜賊忍入殺候旨二候ハ、盗人之入口・家財之様子心付べし、女房者却而落付居候もの也、首縊候趣二候ハ、前書首縊之ケ条之通、君外（夫カ）江誘ひ出シ、切殺候趣二も相見候ハ、其夜日比心安く往来いたし候男来候女房（而脱カ）与嘯き候儀者無之哉、子供并奉公人等申口を糺べし、先者分り難きものなり、武州荏原郡村名失念、次郎兵衛と申夫婦暮し候もの、夜分自害いたし相果旨二而検使相改候処、日比女房（脱文あり）再び臥候由、自身所持之脇差二而咽を突、枕を致ながら死居候付、女房吟味いたし候処、寢入候間不存候得共、苦候音二驚き目覚し候処、右之仕合ゆへ不取敢隣家江為知候儀二而、何故と申儀難分、不慮之別レ二逢候旨口説立相歎き、死人之様子者怪敷儀も無之候得共、女房之様子何となく怪敷、夫婦と年齢相尋候処、次郎兵衛者五拾三才、女房者三拾歳之由、所柄二不似合伊達風之女二付、村役人江縁組次第・女之出所等相尋候処、先年近村福人之妾二而、当村二囲ひ置候得とも暇遣し、家来筋故次郎兵衛江候由申候付、右福人之家江出入いたし候婆々を透し承候処、囲置候内、隣村栄七与申隠男を拵へ候を主人見付、何となく暇遣し、幸ひ次郎兵衛独身故呉候由申候間、栄七身分潜二為礼候処、母妹与三人暮し二而、右夜者遊ひ二出、夜を更し帰り、今朝者疾（ママ）今商ひ二出候由二付、足輕二村役人差添、栄七宅江遣し致詮儀候得共、怪敷物も無之候処、骨折候間二押込有之、不断帯与見へ候もの一面濡、手二血付候間怪敷、持帰り候間（ママ）為洗候処、水血二成、栄者仕業与決シ、猶又足輕・村役人等差出、商ひ先所々相尋候処、一里斗隔候処二而出合、声懸候処、栄七誰を尋候哉与申二付、次郎兵衛女房白状二依而御尋もの有之趣、足輕大声二申候処、栄七顔色変り平伏いたし、慈悲を以見通シ二預り度旨申候間、直二縄懸召連帰、及吟味候処、栄七者女房先二及白状候与心得有之俣申候間、女房一同手

〔検使見合書留〕（二）

——江戸中後期の京都代官に関する史料の紹介と分析——（小倉）

当之上連帰り、奉行所差出シ相成候由及承候、心得吟味可致事ニ候

一、都而檢使者之百人百色二而、一旦二者難申尽候得共、第一者自他之仕業を見極候斗之役ニ付、此所得と弁加べし、口書行ハ年齢・死骸之有様、疵人者疵所之様子、刃物・衣類はぎ候もの所持之品迄、惣而其場所ニ見請候用之品者不残書裁、断倒・首縊・水死・焼死・相对死之類怪敷不相見候ハ、妻子・親類・村役等ニ逸々得者口書ニ書キ載、兎角奉行所二怪ミ不懸様ニ書取候事肝要也、怪敷存候もの者風聞得と糺し、心付候程之事逸々書ならべ、村役人等ニ答為致、相手不知とも詮儀行届候様口書可取之、惣而村入用不相懸、大勢之騒きに不成様取斗べし、喧嘩等之檢使、博奕之詮儀迤いたし、又者其引合之枝々村迄探り候儀不宜候、都而事大造ニ不成様、引合少き様可取斗、不事馴内者口書等用ニも不立儀を長く書取、文体を飾り、テニテハに拘り、相分り〔候〕事をも察度詰にいたし、又者心残り二而逆無益ニ吟味逗留いたし候族有之、奉行所二而届候目今遠近を御量り、檢使日数何日程与御定、夫が長きハ御察度有之事ニ候、心易き檢使之中百人組候マ檢使者中一日入組候様、使者中三日位与心得可申、不知相手を為尋、逗留留致候事者兼て被仰渡有之、致間敷事ニ候、右之外事繁き儀ニ候へ、時ニ臨ミ何様ニも取斗方可有之候、猶功者巧ニ問候而、其国所之仕来ニ任すべし、御定メニ候迄仕来を離レ取斗候者、却而不功者之事也、畢竟御定者心ニ舍之可取斗事ニ候含ミ

〔與書〕維時万延元年庚申穗八月、留於二条街某亭南画之下、海西逸人議之〕

※第二章以下は「檢使見合書留」(三二)に続く。

【付記】 本稿を作成するにあたり、史料の閲覧・掲載につきまして、京都大学大学院法学研究科の伊藤孝夫先生・奈良岡聰智先生、および京都大学法学部図書室のみなさまには、まことに世話になりました。また、史料の翻刻につきましては、中田佳子氏にご協力をいただきました。心よりお礼申し上げます。

なお、本研究は、JSPS科研費JP二三K五六八、JP二一H〇〇六五九、JP二〇K〇〇九六八の助成を受けたものです。